

■ こういう人に会ったら「ん」？と疑って注意しよう

子どもには、こういう人がいたら無視するように伝えましょう。

不審者に遭遇したら？

＜きっぱりと断る＞

怪しい人に声をかけられたら断ることが大切です。「嫌です」「駄目です」「行きません」。断ることで、7～8割の不審者が犯行を諦めるという警察の調査結果もあります。

実際にある声掛けの下記のパターン例を使い、子どもと一緒に断る練習をしてみましょう。

- ◆ 「君かわいいね、写真撮らせて」→「嫌です」「駄目です」
- ◆ 「可愛い子猫がいるよ、あそこの家の裏」→「行きません」
- ◆ 「おまわりさんだけど、少しだけ話を聞いていいかな」→「駄目です」
- ◆ 「お母さんが入院したから、一緒に行こう」→「家に帰って確かめます」
＜逃げる＞

専門家の調査によりますと、犯罪者が子どもに狙いを定めるのは約20メートル手前からだといいます。徐々に近づいて子どもが気づいていないことを確認し、6メートル手前で襲いかかろうとします。いざという時、子どもは自分で逃げる判断をしなければなりません。

20メートルを全力で逃げる

多くの犯罪者は、20メートル追いつかなければ人目が気になり、追うのを諦めます。子どもたちには全力で走って逃げる練習をさせましょう。

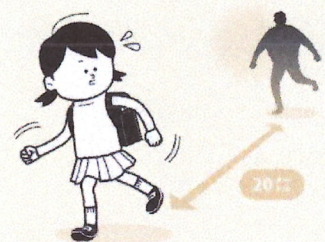
背負っているランドセルを捨てることも効果的です。もしも犯人に追いつかれてランドセルをつかまれたとしても、捨てることで相手の意表をつき、時間稼ぎになるからです。

ぶんぶん・バタバタしよう

もしも手首をつかまれたら、腕を横にぶんぶんと振り、相手の手から腕を抜きましょう。それでも腕が抜けない場合には、しゃがんでお尻を地面につけ、足をばたつかせて相手のすねを蹴るのも得策です。

20mを全力で走る

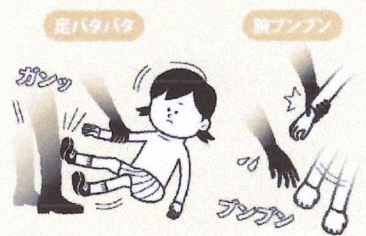
子供を犯罪者から守るには？



多くの犯罪者は、20m追いつかなければ人目が気になり、追うのを諦めます。子供たちには全力で走って逃げる練習をさせましょう。

「腕ブンブン」「足バタバタ」

子供を犯罪者から守るには？



もしも手首をつかまれたら、腕を横にぶんぶんと振り、相手の手から腕を抜きましょう。それでも腕が抜けない場合には、しゃがんでお尻を地面につけ、足をばたつかせて相手のすねを蹴るのも得策です。

②